

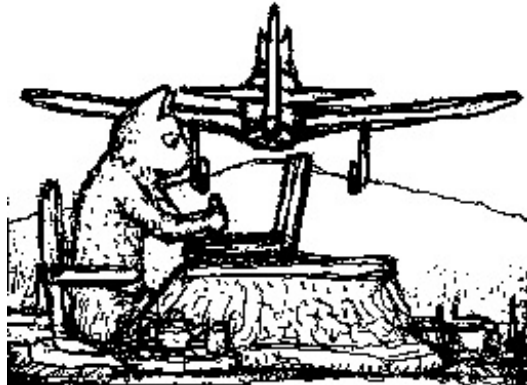
ぼくはここにいるよ



にやあそ



ぼくはここにいるよ。



飛行機だつてとばせるよ。

フライトシミュレーターといって、本物の飛行機と

同じ様に操縦出来るんだ。

フラップ、エルロン、ラダー、エレベーター、

操縦桿を握って、

さあ冒険のはじまり！



僕はほとんど一日中この部屋で過ごす。

タイムマシンに乗って、

自分を見てもようよ。

きつとこんな感じだよ。



アニメーション。

絵が動く原理を知っていても、

簡単には描けない。

僕の住んでいる、この世界には、

アニメーションを、

評価出来るひとはいない。



悪夢は突然やってくる。

現実と空想の区別が付かなくなる。

そんなバカな。

そんなことがあるはずないじゃないか。



革命が起きた！

世界は変化する。

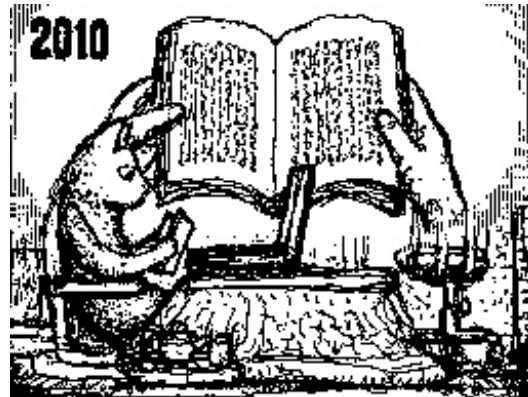
僕たちはイメージの世界に生きている。

ただのアイコンから何かを想起する。

メタモルフォーゼ。

まやかしのイメージ。

真実のイメージ。



本を読むってどんなこと。

背表紙にひとめぼれ。

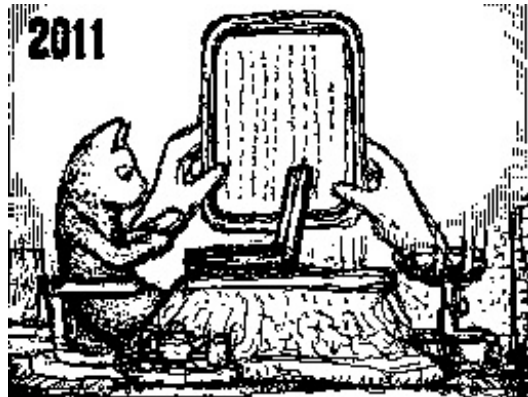
手に馴染む重さと大きさ。

ざらざらした手触り。

さらのページを捲る指。

活版印刷の擦れた文字とインクの薫り。





冷たい板切れ。

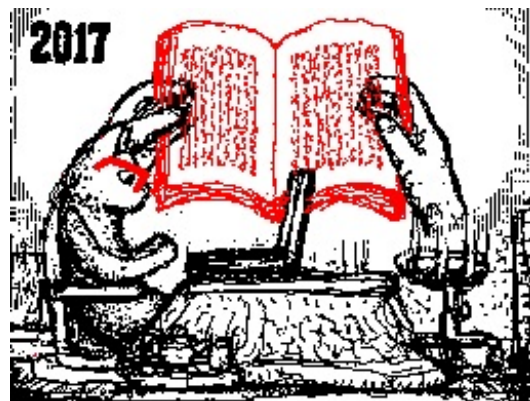
そいつは異次元からやってきた。

異世界人からの贈り物。

本がいっぱい詰まってる。

つるつるしている。

自分から光る。



赤い眼鏡。

赤い本。

赤い文字。

赤いお話。



齡をとった。

年寄りの眼鏡をかける。

手に馴染む。

目に馴染む。

昔馴染にまた逢った。



世界の終りと始まり。

ぼくは生きていたのかな。

ぼくは存在していたのかな。

だれもぼくのことを知らない。

だれも気にも留めない。

ぼくはここにいるよ。



「ねえ知ってる？」

「なあに？」

「本が機械になるんだって……」

「なにそれ？」

「機械が本になるって……」

「……」

「さむいね……」

「うん、さむいね……」

「ねむくなっちゃった……」

「うん、ねむくなっちゃった……」

ぼくはここにいるよ

<http://p.booklog.jp/book/31623>

著者 : nyaozo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/nyaozo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/31623>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/31623>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.